

ベルギー 地域農業大臣の訪日で洋ナシの輸出を推進

[FreshPlaza 2025年4月24日](#)

フランドレン地域農業大臣の実務訪問

[VILT](#) (ニュースサイト)によると、フランドレン地域のジョ・ブラウنز農業大臣(キリスト教民主党)は東京を実務訪問中に、ベルギー産洋ナシの長年の輸出案件にあらためて注意を促した。2012年から保留されているこの解禁要請は、日本の厳しい植物検疫要件もあって処理が遅れ、現在は5段階のうち第2段階にある。

ブラウنز大臣は、日本が本件を優先するという約束を得ており、夏までに具体的なフィードバックを得ることを目指している。同大臣は、輸出市場を多様化することの重要性を強調し、継続的な政治的支援への期待を表明した。ベルギーには、(フランドレン地域の)リンブルフ州を中心に約1千の洋ナシ生産者がおり、日本市場への供給体制は整っている。

同大臣はLinkedIn(ビジネス向けSNS)に、「今週、私は東京で日本の農林水産省を訪問し、再度リンブルフ州産洋ナシの輸出への関心を喚起した。日本は果実の輸入規制が特に厳しいが、当局は我々の洋ナシ案件を優先的に扱うことを示した。夏までに具体的な回答を得て、早く前進できることを願っている」と投稿した。

トルコ 今シーズンのサクランボ生産量は50～60%減少の予想

[FreshPlaza 2025年4月25日](#)

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ(DFF)社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、トルコのサクランボはシーズンが始まる前に、特に同国の中央地域で霜による被害を受けたとして、「中央地域のサクランボは、霜によってほぼ全滅した。この地域は、トルコのサクランボ総生産量の50%を占める。気温は3～4日連続で-15℃を下回り、サクランボの果樹園にとっては大惨事だ」と述べた。(以下「」は同氏の話)

ケリム氏によると、同社の果樹園はまだ満開ではなかったため、ほとんどの被害を免れた。「弊社の場合、自社のサクランボ果樹園は主に標高の高い山地にあるため、果樹はまだ開花前の休眠中であり、霜による被害を免れた。契約生産者の中には、残念ながら霜の影響を受けた人もいる。そのため、自社の果樹園の状況は良いものの弊社も影響を受ける。しかし、損失は数トンに過ぎず、霜が降りた後に最初に予想したほどは悪くない。」

トルコのサクランボ産業は厳しい状況に置かれているが、ケリム氏は来シーズンに向けて戦略を変更する予定はない。「弊社のサクランボの損失はそれほど大きくなく、約15%と予想されている。トルコの国全体では、サクランボの少なくとも50～60%が失われた。弊社では戦略を変えるつもりはなく、自力で輸出できるサクランボがまだあるため積極的に取り組む。弊社では契約済みの出荷数量は減らさずに履行した。弊社の生産・調達能力は強固であり、今シーズンはより良い価格とより良い売上げを期待している」

ケリム氏は、サクランボの入手が難しいため、価格の上昇を回避する術はないと強調する。「現在の状況を考えると、サクランボの価格が昨年よりも高いのは驚くことではない。しかし、トルコのサクランボの価格は最大で10～20%上昇するはずであり、これは外国為替にも関連している。通常より60%または70%も高い価格では市場でさばけないため、そのような価格でトルコ産のサクランボを販売することはできない。」

「事業を堅実に展開し、果樹園にまだ完璧な品質のサクランボがある企業には、自然と好機が訪れるものと期待している。弊社ではDeBaブランドとサクランボの品質に大変自信を持っており、トルコのサクランボの一般的な状況は悲惨であるが、我々自身が克服すべき課題はそれほど多くないと思う。厳しいシーズンではあるが、取引先が期待する良いサービスを提供しつつ、昨年よりも量を増やしていきたいと考えている。サクランボ業界は長期的な取組みを重視しており、毎年このような気象条件になると予想している人はいない。我々は、このような厳しい時期にしっかりと対処し、取引先を支援しなければならない。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)